



全国私立大学 FD連携フォーラム

CONTENTS

P.2 新組織体制のご紹介

P.3-4 ご挨拶

法政大学／関西大学／創価大学／龍谷大学

P.5 2013年度総会・パネルディスカッション実施報告

P.6 新規加盟校のご紹介

日本大学／愛知大学

P.7 FD徒然草 Part4「京都産業大学におけるFDの取組」

京都産業大学 耳野 健二

P.8 JPFF入会のご案内／「実践的FDプログラム」のご案内



全国私立大学 FD連携フォーラム

学生の規模や多様性の面で共通の課題を抱える中規模以上の私立大学が互いに持てる力を出し合い、FD（ファカルティ・ディベロップメント）分野において連携することを目的として、全国私立大学FD連携フォーラムを2008年に発足しました。このフォーラムでは、実践的なFDプログラムを通じて、学生を主体的な学習者に育て、私学の教育の質を保証することを大きな目的としています。現在の加盟校は31大学に上ります。（2013年9月時点）

2013年には、フォーラムの拡大に伴い、安定的な運営を目指した新たな組織体制をスタートさせました。関東、関西のそれぞれに「地域担当幹事校」を置き、地域ごとの交流・連携を一層推進します。また、両地域をまとめる「代表幹事校」（「地域担当幹事校」のいずれかが担います）を置き、全体企画の実施や情報共有を図ります。また、加盟大学の拡大に伴い、幹事校体制を強化するために、新たに任期のある幹事校を会員校から2校置くこととしました。

加盟校一覧(50音順)

西日本地域

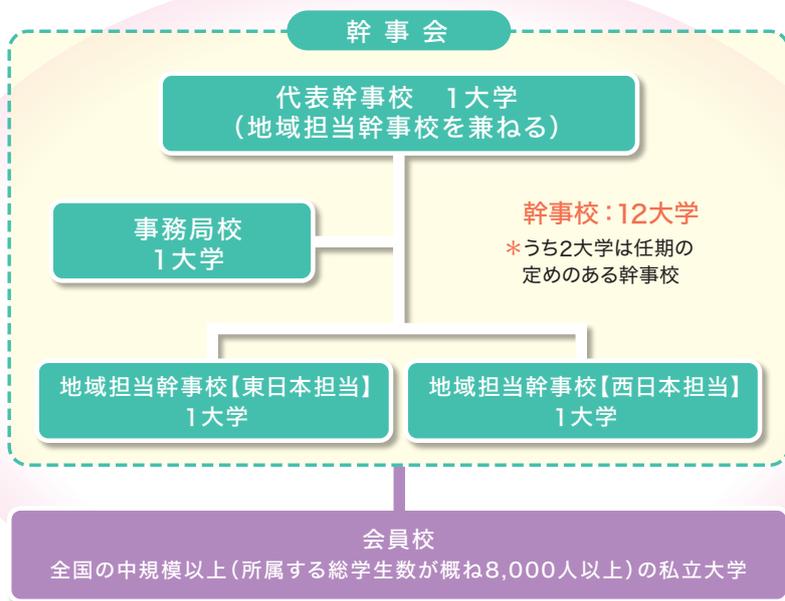
愛知大学	中部大学
関西大学	同志社大学
関西学院大学	名城大学
京都産業大学	立命館大学
九州産業大学	龍谷大学
甲南大学	

東日本地域

青山学院大学	帝京大学
神奈川大学	東京農業大学
関東学院大学 (2013年7月加盟)	東北学院大学
北里大学	東洋大学 (2013年9月加盟)
慶應義塾大学	日本大学
國學院大学	法政大学
国土館大学	明治大学
芝浦工業大学	明星大学
創価大学	立教大学
中央大学	早稲田大学



全国私立大学FD連携フォーラム(JPFF)



代表幹事校

法政大学

地域担当幹事校【東日本担当】

法政大学

地域担当幹事校【西日本担当】

関西大学

幹事校

関西大学、関西学院大学、慶應義塾大学、創価大学*、中央大学、同志社大学、法政大学、明治大学、立教大学、立命館大学、龍谷大学*、早稲田大学

(50音順、*は任期の定めのある幹事校)

事務局校

立命館大学

監査役
2大学

ご挨拶



▶ 代表幹事校・地域担当幹事校【東日本担当】 法政大学

全国私立大学FD連携フォーラムの 新たな発展への期待

教育開発支援機構FD推進センター長
児美川 孝一郎



今年度のJPFF総会を機に、新たな体制として本学が代表幹事校（地域担当幹事校【東日本担当】）の役目を仰せつかることになりました。実は私自身、この4月にFD推進センター長を拝命したばかりでもあり、はなはだ心許ない限りではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

FDについての考え方には、専門スタッフの役割を重視し、汎用的に通用するモデルの創出と研修等を通じた全体の底上げをめざす「標準モデル」と、教職員のあいだでの協働と同僚性の文化の育成による日常的な実践知の蓄積をめざす「生成モデル」があるように思います。しかし、私は、この両者は必ずしも矛盾するものではなく、相補的な関係に立つものであると考えています。前者による推進力（モデルやスタンダードの提示）があつてこそ、後者の相互研鑽による同僚性や実践知が豊かに育まれ、最終的にはFDの究極の“理想”である、「FDという言葉が仮に“死語”になったと

しても、それぞれの教学単位では、ごく当たり前のこのようにFD活動が日常化されている」という状況を展望できるようになると考えるからです。

JPFFのこれまでの活動は、あえて分類すれば、前者の「標準モデル」の確立に向けたFDの推進につとめるべく、会員校の間での情報交換や意見交換の場をつくりだすことにあつたように考えます。そして、その役割は、今後もますます重要なものとなることは間違いありません。

微力ではありますが、法政大学が、そして私自身も、そうした活動の一端にほんの僅かにでも貢献することができればと切に願っております。もちろん、言わずもがなのことですが、「JPFF栄えて、各大学における日常的なFD減る」という事態になっては困りますので、そのことを肝に命じつつ、一步一步前に進む必要があるわけですが。



▶ 地域担当幹事校【西日本担当】 関西大学

FD活動の日常化をめざして

教育開発支援センター長
田中 俊也



この度2013年度以降のJPFFの体制改革で、私ども関西大学が西日本担当の地域担当幹事校をお引き受けすることになりました。東日本担当及び代表幹事校をお引き受けいただいた法政大学、及び引き続き事務局校をお願いする立命館大学ともども、よろしくお願いいたします。

本学の教育開発支援センター（CTL）は、学内の同等の組織を2008年に改組・発展させてきた機関です。専任教員4名と優秀な事務スタッフ、各学部からのセンター委員、アドバイザースタッフ、研究員を抱え、学部を超えた高等教育全般を担う組織です。同時に、学内での新たな教育的取り組みのインキュベーターとして各種プロジェクトを立ち上げ、それを育てていく役割

も担っています。

本学CTLでの活動と、本JPFFの活動は内容的に重なる部分も多く、地域担当幹事校の1つとして、西日本の大学におけるFD活動の発展に寄与すべく、「課題をこなす」というスタンスではなく「問題を解決する」というスタンス（JPFFニュース4号の拙論参照）で臨みたいと思っています。FD活動は、どこかでだれかに言われてとってつけたように活動するようではほとんど意味がありません。本学では「日常的FD活動懇話会」という会合を不定期に、必要に応じて開いています。こうした会の蓄積が本JPFFにおいても草の根で広がっていくことを期待しています。

皆様方のご支援・ご協力を切にお願いしてご挨拶いたします。



▶ 幹事校(任期の定めのある幹事校) 創価大学

幹事校新任あいさつ



教育・学習支援センター長
関田 一彦

この度、創価大学は任期のある幹事校をお引き受けしました。日本を代表する大きな私学が名を連ねるJPFFの中にあって、規模も小さく、歴史の浅い大学ですが、どうぞ宜しくお願いいたします。

本学では、全学イベントとしてのFDフォーラムは年1回ですが、学外にも公開している定例のセミナーは年6回、定例化されない勉強会や各種企画も数多くあります。また加えて、各学部独自に行うFD勉強会がありますから、先生方には、毎月必ず研鑽の機会が提供されていると思われまます。

この創価大学で、全学的FDを推進しておりますのが教育・学習支援センター(通称CETL)です。CETLは平成12年の開設以来、3つのGP事業に取り組んで参りました。中でも平成21年からの3年事業では学習支援体制の整備・拡充を加速させ、今年9月から新たに総合学習支援センターを分離・開設することになり

ました。

今後のCETLはFD推進機関として、改めて先生方の教育力向上に業務の軸足を置くこととなります。こうした学内の動きに呼応するかのように、FD推進の全国組織であるJPFFの幹事校の末席に加えていただくこととなり、取り組みへの決意を新たにしております。

その中で、実践的FDプログラムの活用については、オンデマンド講義を集合視聴しています。学期に2~4本程度ですが、1本の講義を3回に分け、昼休みの40分間、お弁当を食べながら参加者が仲良く勉強し合っています。今後はワークショップも取り入れ、JPFFのリソースも組み込んだ本学用の研修プログラムを整備・開発したいと考えています。

最後に、皆様のご指導・ご協力をよろしくお願い申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきます。



▶ 幹事校(任期の定めのある幹事校) 龍谷大学

幹事校就任にあたって ～龍谷大学のFDプロジェクト紹介～



大学教育開発センター長
長谷川 岳史

龍谷大学の歴史は1639年に西本願寺に設けられた「学寮」にはじまります。以来、本学は「浄土真宗の精神」を建学の精神とし、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」人間を育成することを目的としてきました。現在、本学では第5次長期計画のもと、優れた研究を基盤にした「教育を重視する大学」を目指しています。

2001年4月に設置された「大学教育開発センター」では、教育活動の支援や研究開発等を推進するため、毎年度指定研究プロジェクトと自己応募研究プロジェクトを設置し、FD活動の展開及び促進を図っています。

<2013年度プロジェクト>

2013年度 指定研究プロジェクト(3件)

- ・学生の主体的な学びのコミュニティーにおける学修支援機能の研究
- ・教育活動を支援するための各種情報の活用方法
- ・大学院FDの課題

2013年度 自己応募研究プロジェクト(10件)

- ・子育て家庭への援助技術を育成する教材研究・開発
- －保育者養成/教職課程における家族援助力の育成を目指して－
- ・福祉・教育における児童文化の学修を深める取り組み
- －こどもの豊かな児童文化研究をデザインするために－
- ・専攻科目を英語で講義するための基礎的研究
- ・テキスト『ドキュメンタリー映画制作講座』の作成
- ・文学部臨床心理学科における「新入生用学びのテキスト」の作成
- ・ポジティブ心理学論に基づくメンタルヘルス脆弱性の強化
- ・大学生の系列化能力向上支援－ユニバーサル・プログラムの構築を目指して－
- ・大教室講義における学生の「参加度」向上に向けての研究
- ・eラーニング グッドプラクティス共有プロジェクト
- ・メディア制作研修への学生派遣による教育への波及効果の検証

今後も全国私立大学FD連携フォーラムの活動を通して、本学のFD活動の具現化、活性化を推進するとともに、新幹事校として少しでも加盟校のお役に立てればと考えております。

2013年度総会・パネルディスカッション実施報告

総会・パネルディスカッションを振り返って

立命館大学 教育開発推進機構
土岐 智賀子

2013年度の総会当日は、梅雨の最中、京都を語る際の形容詞「蒸し暑い!」をそのまま表したような湿度の高い天候不良日であったにもかかわらず、東北から九州に至る日本各地の大学から約70名にも及ぶ方々にお集まり頂き、総会ならびにパネルディスカッションが開催されました。

総会は、龍谷大学大学教育開発センター長の長谷川岳史先生の、ユーモアたっぷり、かつ軽妙な司会進行のおかげで、終始和やかなものでした。冒頭に立命館大学教育学部長の森本朗裕先生からの挨拶があり、昨年度の総会議事録の確認後、新年度の体制の確認が行われました。その後、2013-2015年度の代表幹事校ならびに地域担当幹事校【東日本担当】の法政大学から教育開発支援機構FD推進センター長の児美川孝一郎先生と、地域担当幹事校【西日本担当】の関西大学教育開発支援センター長田中俊也先生、そして、任期の定めのある幹事校に新たに着任された、創価大学教育・学習支援センター長の関田一彦先生、龍谷大学の長谷川先生からそれぞれご挨拶がありました。さらに、監査役担当校の紹介をはさんで、新規加盟校の九州産業大学日野年春大学評価室室長、明星大学(沖裕貴立命館大学教育開発推進機構教育開発支援センター長が代読)、日本大学村田英治先生、愛知大学・砂山幸雄先生からもご挨拶をいただきました。ご多忙の中をご出席、また、挨拶文をご用意いただいた各大学の代表者の方々の話から、大学を取り巻く環境が大きく変わる中で、大規模校の抱える問題を共有し、アイデアを出し合い、よりよい教育環境を作り上げていこうとする強い意志が伝わってきたように思われます。今年度提供する実践的FDプログラム(立命館大学開催のワークショップ)のご案内、同志社大学学習支援・教育開発事務室鹿野博志教育企画係長より同大学のラーニング・コモンズのご案内等があり、大学総会は幕を閉じました。

短い休憩を挟んで開始されたパネルディスカッションでは、立命館大学教育開発推進機構教育開発支援センター安岡高志副センター長の問題提起に続き、創価大学学士課程教育機構の山田竜作先生、國學院大学教育開発推進機構小濱歩先生、中部大学大学教育研究センター杉井俊夫先生、立命館大学教育開発推進機構川那部隆司先生から事例紹介がありました(「パネルディスカッション次第」参照のこと)。安岡先生からは評判のよい授業の分析から整理された「評判のよい授業展開の10カ条」が、山田先生からは学生自らが思考し仲間と議論する授業運営の試みについて、小濱先生からは全学規模ならびに一学部の授業評価



アンケートの改善事例について、杉井先生からは授業改善のための授業参観を含む教員の意見交換とFDネットワーク作りの試みについて、川那部先生からは学習ポートフォリオの導入と課題について披露され、引き続きフロアーからの質疑応答が行われました。筆者自身それぞれの試みに「なるほど、そういうやり方もあるのか」と目から鱗の思いをし、また、試行錯誤をしながら、よりよい教育環境を作り上げようとしている先生方の姿勢に啓発される思いを強く抱きました。

パネルディスカッションの後に催された懇親会にも多くの方々にご参加頂き、「教育の向上」「教育の質保証」を目指す同志の方々との集まりであるJPFFの1日は幕を閉じました。ご参加いただいた教職員の方々が、いくつもの「ヒント」を得てそれぞれの教育の場に戻って行かれたのではないかと思います。



パネルディスカッション次第

◆問題提起

評判のよい授業展開の10カ条

安岡 高志氏 (立命館大学 教育開発推進機構 教育開発支援センター 副センター長)

◆事例紹介

「政治学入門」授業改善の試行錯誤:「苦手意識」の壁と対峙して
山田 竜作氏 (創価大学 学士課程教育機構)國學院大学における授業評価アンケートの実施と活用状況
小濱 歩氏 (國學院大学 教育開発推進機構)中部大発「魅力ある授業づくり」～主体的なFD活動と授業評価～
杉井 俊夫氏 (中部大学 大学教育研究センター副センター長)授業アンケートを用いた学習ポートフォリオ導入の効果検証
～授業外の学習時間に注目して～

川那部 隆司氏 (立命館大学 教育開発推進機構)

◆全体討論

日本大学

◆全国私立大学FD連携フォーラムへの期待

高等教育を取り巻く環境や学生の資質が著しく変化中、大学における教育の在り方や手法も絶えず見直す必要に迫られています。このような状況の中、大学教育の質的転換を視野に入れながら、教育の質保証の推進を徹底するため、日本大学ではFD推進センターを核として、教職員が一丸となって組織的に取り組んでおります。学生の潜在力を顕在化させ、社会人基礎力と真の教養に裏打ちされた実質のある学士力を備えた学生を「自主創造」の教育理念のもとに育成することが当センターの目標であると考えています。

そのためには、本大学内における個人並びに学部等におけるFD活動の相互共有・活用はもとより、中規模以上の私立大学の英知を集め様々なFD関連事業を展開している本フォーラムの取り組みを共有・活用させていただくことにより、多面・多角的な教育の質向上を推進していきたいと考えています。

◆学内のFD実践紹介

日本大学はFDを「自主創造の理念の下に日本大学を取り巻く外的諸要因をも分析して、学問領域単位

(学科・専攻等)での教育プログラムを常に見直し、それを実行するため、教員が職員と協働し、学生の参画を得ながら組織的に取り組む諸活動」と定義しています。

この定義に基づき、全学レベルでのより一層のFD推進を図るべく、FD推進センター(全学FD委員会)の下に3つの機能別ワーキンググループ(調査・分析WG、プログラムWG、教育情報マネジメントWG)を設置し、様々な取り組みを展開しています。



「全学FDシンポジウム」の様相



『日本大学FDガイドブック』



愛知大学

◆全国私立大学FD連携フォーラムへの期待

本学では、FD委員会を組織し、教職員個々人の不断の努力に加え、大学としての組織的FDの強化による教育の高度化・豊富化に向けて、何をなすべきかを継続して検討を行っています。そして、きめ細かく良質な教育や学習支援の提供には、その主体となるべき教職員への支援や補助が欠かすことができないと考えています。

本フォーラムへの加盟により、他大学の事例や取組を積極的に学び、本学の教育改善に役立て、本学の教育の質を高めていきたいと考えています。

◆学内のFD実践紹介

本学では、次のようなFD活動を実践してきております。

- ・学部・学科におけるFD活動方針、年間計画等の策定
- ・カリキュラムの検討(カリキュラム上における各科目の役割の明確化、授業科目の系統性や順次性の検討、シラバス内容の充実等)
- ・授業評価アンケート(春・秋・集中講義)の実施並びに結果の分析

- ・授業参観・公開授業とピアレビューの実施
- ・新任教員のFD研修プログラムの実施
- ・教材提示機器、教室設備の改善
- ・教員個人の授業スキルアップのサポート体制整備など
- ・非常勤教員のFD活動への取組の検討

◆学内での実践的FDプログラム活用方法

本学は、各教員に対し、学外で行われる授業改善研修への積極的な参加を勧めています。今回加盟させていただいたことで、本学教員も豊富な実践的FDプログラムを利用できるようになりました。本学教員がこれを活用してそれぞれの授業改善に役立てるだけでなく、最新のFDのトピックや他大学の先進例を学ぶことを通じて、本学教員全体のFDに対する意識向上につながるよう、積極的に紹介し、利用の促進に努めてまいります。



FDフォーラムの様相



京都産業大学におけるFDの取組



京都産業大学法学部教授・学長特命補佐
耳野 健二

◆「建学の精神」とFD

京都産業大学(以下「本学」と呼ぶ)は、1965年に開学し、2013年現在、8学部8研究科(通信教育課程を含む)、1専門職大学院、在学生約13,000名を擁する中規模総合大学である。本学には、学祖荒木俊馬の手になる「建学の精神」があり、そこにはこう書かれている。すなわち、「大学の使命は、将来の社会を担って立つ人材の育成」にあり、かかる人材とは、「高い人格をもち、人倫の道をふみはずすことなく、社会的義務を立派に果たし得る人」、「全世界の人々から尊敬される日本人として、全人類の平和と幸福のために寄与する精神をもった人間」である、と。

このような「建学の精神」を出発点としつつ、本学でも各部局でさまざまなFDの取組がなされている。そのなかでも、中心となって活動しているのが「教育支援研究開発センター」(以下「センター」と呼ぶ)である。ここでは、センターの取組のいくつかを紹介したい。

◆FD活動の取組

まず、本学では、大学全体および各学部の三つのポリシー(学位授与の方針、教育課程編成の方針、入学者受入の方針)を策定するにあたり、センターが各部局の支援をおこなった。そのさい、「建学の精神」を手掛かりに全学のポリシーを定め、これを各学部のポリシーと連動させることを試みた。

次に、いわゆる授業アンケートについては、センターが中心となってこれを実施している。本学では、 Semester毎に「教員-学生間の対話シート」と「学習成果実感調査」という二種類のアンケートが実施されている。前者は、授業方法(板書や教材、教員の話し方等)について学生の意見を聞き、これに対する所見を教員が学生にフィードバックすることを目的とするものである。後者は、学期末に学部の教育方針に従った組織的アンケートを学部主体で実施し、当該学部の教育改善の資料とするものである。こちらについては、アンケートの結果をもとに、学部独自の授業ワーク

ショップを開催するなどの取組も見られる。

さらに、本学のFD活動を語るうえで欠かせないものとなっているのが、学生FDスタッフ「燦(SAN)」の活動である。学生FDスタッフが主催した「京産共創プロジェクト」と銘打ったFDイベントでは、多数の教員・学生・職員に対話の場を提供し、本学の教育活動を活性化させる一助となっている。

また学内で、センターの主催によりFD/SD(Faculty Development/Staff Development)研修会を開催し、学内の情報共有と意見交換の場を設けている。平成24年度は、4回の研修会を実施した(第1回「障がい学生支援に関するFD/SD」、第2回「学部教育におけるTA/SA(Teaching Assistant/Student Assistant)」、第3回「全学学習活動実態調査報告会」、第4回「ゼミ全学実態調査報告会」)。また新任教員研修会もセンターにおいて実施している。

◆今後の課題

こうした活動の一方で、課題も山積している。TA制度の改革など、主体的・意欲的に学生が学ぶための環境整備は、本学でも喫緊の重要課題である。また、グローバル化や産学連携の推進にともなう種々の改革も、教育の質保証に関わる側面をもつ以上、FD活動への影響は避けられない。

こうした取組を進めるなかで、筆者がことのほか重要だと感じているのは、「教職協働」の推進である。とりわけ私立大学においては、このことの意義はきわめて大きいように感じられる。つねに「建学の精神」に立ち返り、共通のミッションを帯びた同僚として、教員・職員の間で相互の信頼関係を築いていくことが肝要ではないだろうか。

いずれにせよ、本学のFDはまだまだ発展途上である。他大学の取組に学びながらさらなる改善を続けたい。この点、所属大学は違えど、同じ大学人として、大学間連携のなかで他大学の教職員の方々と「協働」することもまた、FD活動の醍醐味であり、不可欠の事柄であると考えている。

入会のご案内



全国私立大学FD連携フォーラムは、全国の中規模以上(学生数8,000名以上)の私立大学が連携し、活動しています。本フォーラムでは、高等教育の質の向上に資するため、加盟校同士の情報共有や意見交換を促進しています。ウェブサイトでは、取り組みの概要や、加盟校のFD活動をご紹介します。

詳しくは下記ページをご覧ください。

URL: <http://www.fd-forum.org/fd-forum/>

入会を希望される場合には、「入会のご案内」から「入会届」をダウンロードの上、事務局まで郵送でお送りください。

※フォーラム運営に係る費用は、会員校の年会費で賄っております。
(年会費:5万円(2013年9月現在))

※入会に関するご質問がございましたら、事務局までお問い合わせください。

実践的FDプログラムのご案内

実践的FDプログラムとは、教員が自らの授業を専門分野と教育学の観点から省察することができる知識、技能、態度、特にアクティブ・ラーニングを実践する能力を修得する研修プログラムです。

本プログラムは、教員の4つのアカデミック・プラクティス(教育、研究、社会貢献、管理運営)に対して、

- ① 教育学をはじめとした系統的な理論のオンデマンド講義
- ② 授業技術やコミュニケーションスキルを育成するワークショップ
- ③ 個々の教員ニーズに応える日常的な教育コンサルテーション

から構成されています。

私立大学には、クラス規模の大きさ、教員の持ちコマ数の多さ、学生の学力と学習意欲の多様性など、多くの困難な教育条件が存在します。たとえば、各大学では、新任教員研修において本プログラムを利用することを通して、大学教員に求められる教育力量と職能を育成し、大学教育の質を保證することが可能となります。

各大学の対象者や実施目的の違いによって、講義(オンデマンド)や講座(ワークショップ)等を選択し、様々なプログラムを作ることが出来ます。

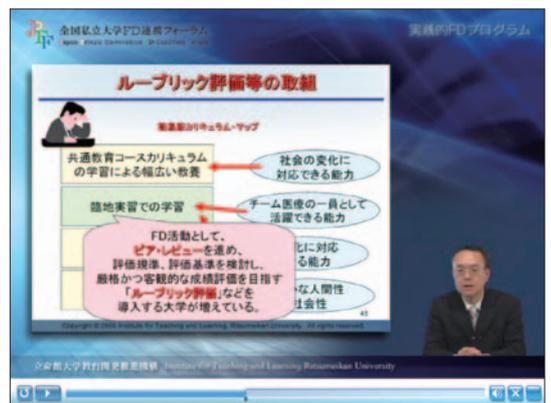
詳しくは、下記ページをご覧ください。

JPFF会員校

URL: http://www.fd-forum.org/fd-forum/html/fd_application.html

JPFF非会員校

URL: http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/ac/itl/fd_p/fd_program.html



利用申込について

利用期間は1年間となります。(5月利用開始、翌年3月末終了)郵送・FAX・メールのいずれかでお送りください。

上記のウェブサイトより「利用申込書」をダウンロードし、事務局へお送りください。

(利用申込は随時受け付けておりますが、ご利用いただけるまでに約2週間かかります。)

事務局

立命館大学 教育開発推進機構 (事務局:教育開発支援課)

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL:075-465-8304 FAX:075-465-8318 e-mail:fd71cer@st.ritsumeai.ac.jp